



中野冷機株式会社

2022年12月期 第2四半期 決算説明会

2022年9月6日

東京証券取引所スタンダード市場

証券コード：6411

- I. 2022年12月期 第2四半期 決算の概要
- II. 2022年12月期 業績予想
- III. 中長期経営計画“*N-ExT2023*”
- IV. 株主還元方針
- V. 企業価値向上に向けた取り組み



I. 2022年12月期 第2四半期決算の概要

1. 業績サマリー
2. 損益計算書
3. 販売実績（事業分野別・販売国別）
4. 増減要因分析
5. 貸借対照表
6. キャッシュフロー計算書





【ショーケース・倉庫事業】⇒減収 (前年同期比13.3%減)

- ショーケース事業は、昨年の設備投資の反動もあり改装需要が減少
建築資材の高騰による設備投資の抑制も影響
- 倉庫事業は、ライフスタイルの変化により冷凍食品の需要が増加しており、堅調に推移



【メンテナンス事業】⇒増収 (前年同期比13.1%増)

- 提案型メンテナンスによる店舗サポートの継続が受注獲得に結び付く



【海外事業】⇒減収 (前年同期比54.0%減)

- 新型コロナ感染拡大に伴う上海市のロックダウンにより、4月から5月までの間営業活動が停止
- 中国国内において、小売店舗に投資抑制の動き

2. 2022年12月期第2四半期 損益計算書

売上高： 昨年の反動からショーケースの改装需要が減少したため減収

利益： 売上減収、生産台数の減少による操業度の低下、原材料価格の高騰により減益

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2021/12		2022/12				前期比 増減
	2 Q実績	構成比	当初予想 (22.2.9)	修正予想 (22.7.8)	2 Q実績	構成比	
売上高	16,419	100.0	14,700	未定	14,158	100.0	△ 2,260
ショーケース・倉庫事業	12,962	78.9	—	—	11,238	79.4	△ 1,723
メンテナンス事業	1,980	12.1	—	—	2,240	15.8	259
海外事業	1,477	9.0	—	—	680	4.8	△ 797
営業利益	1,229	7.5	1,000	未定	519	3.7	△ 710
経常利益	1,296	7.9	1,100	未定	579	4.1	△ 717
親会社株主に帰属する 当期純利益	859	5.2	754	未定	437	3.1	△ 422

3-1. 2022年12月期第2四半期 販売実績（事業分野別）

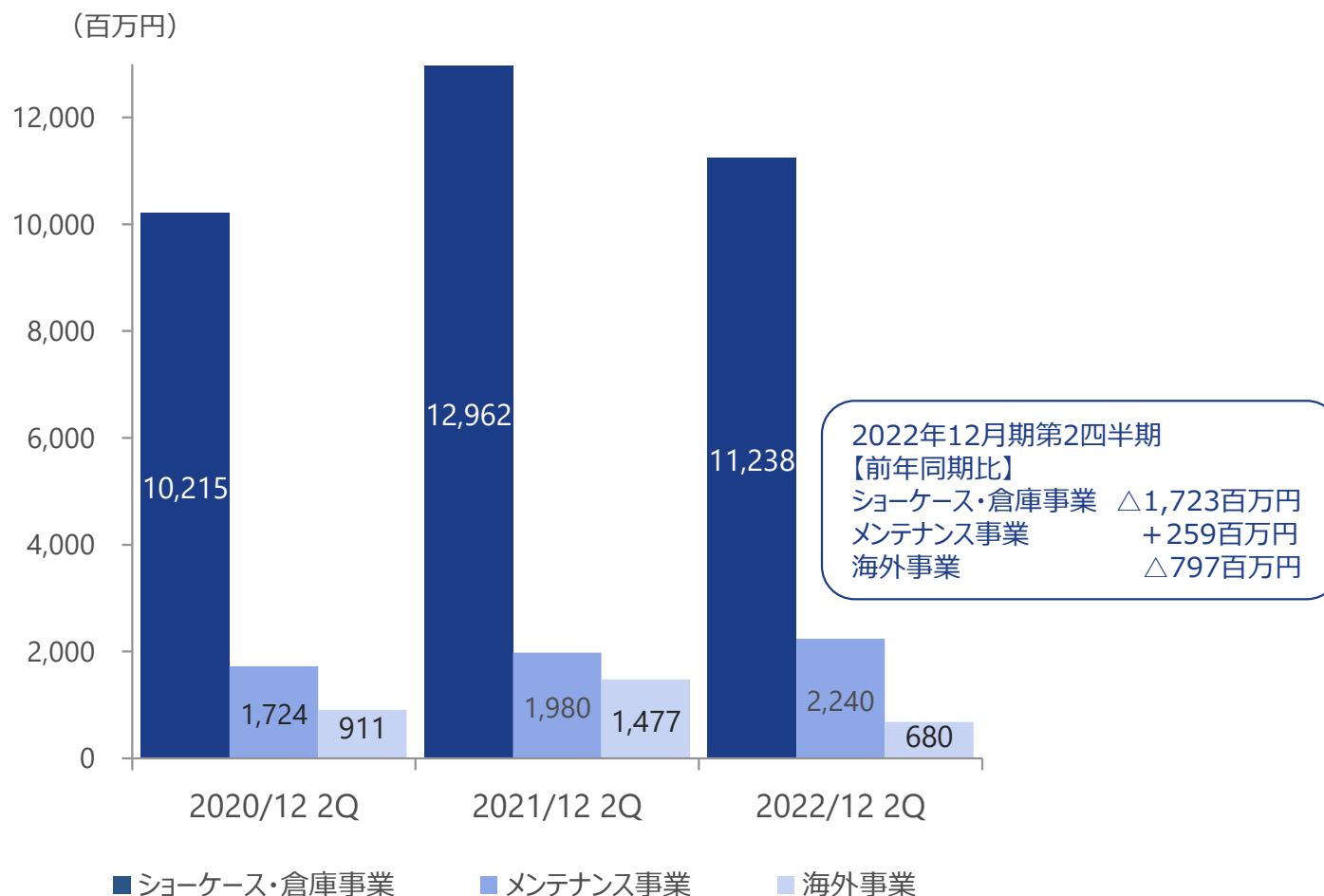
ショーケース・倉庫事業は、昨年の設備投資の反動により今期の受注が減少

その結果、ショーケース事業の改装が減少し減収

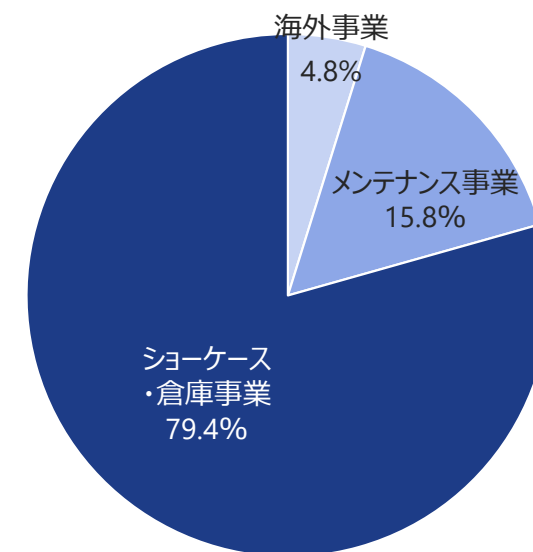
メンテナンス事業は、提案型メンテナンスの継続による受注獲得で増収

海外事業は、上海市のロックダウンにより製造、販売の活動が2か月間停止したため減収

事業分野別 販売実績



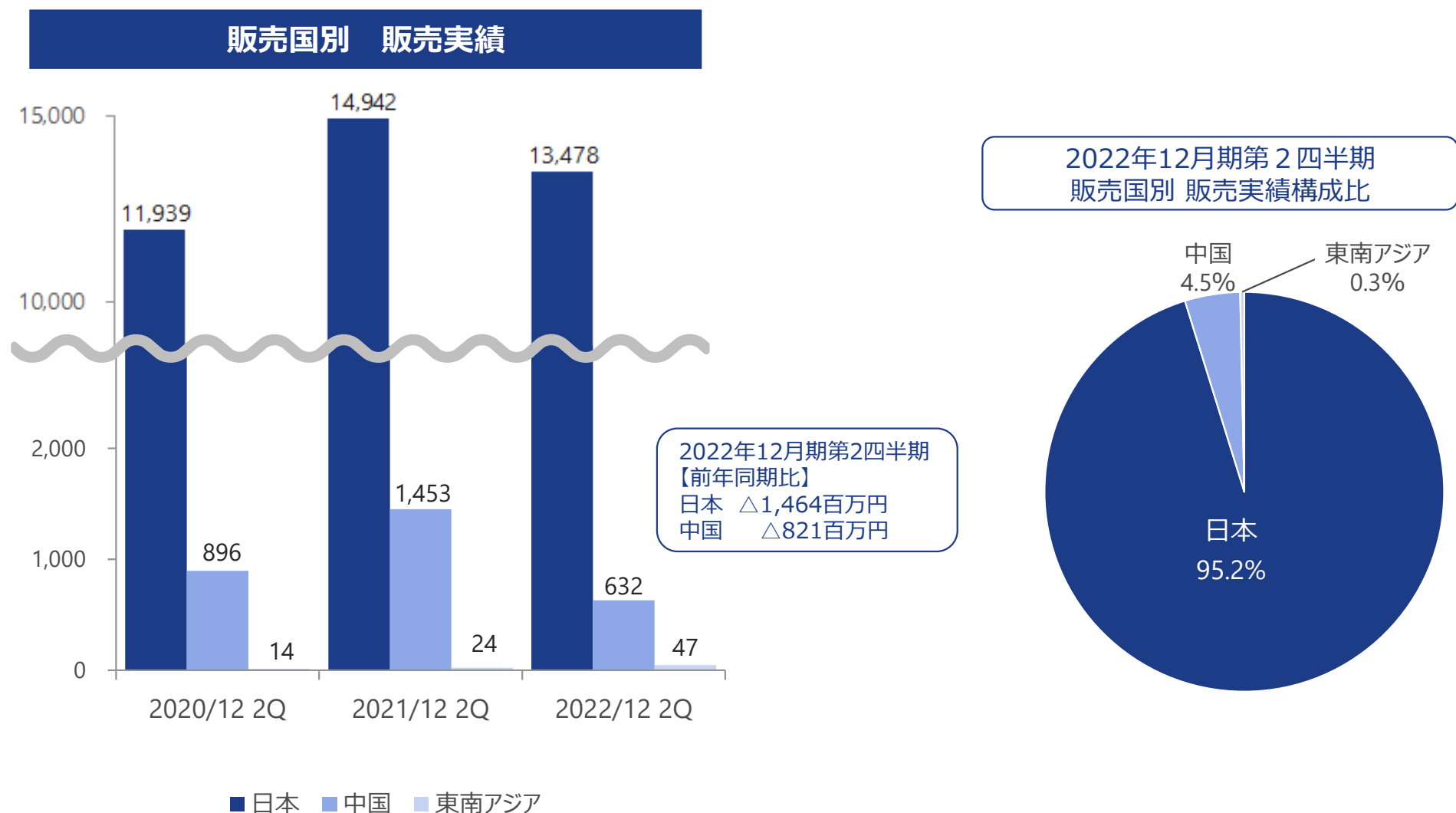
2022年12月期第2四半期 事業分野別 販売実績構成比



3-2. 2022年12月期第2四半期 販売実績（販売国別）

日本は、ショーケースの改装需要が減少したことにより減収

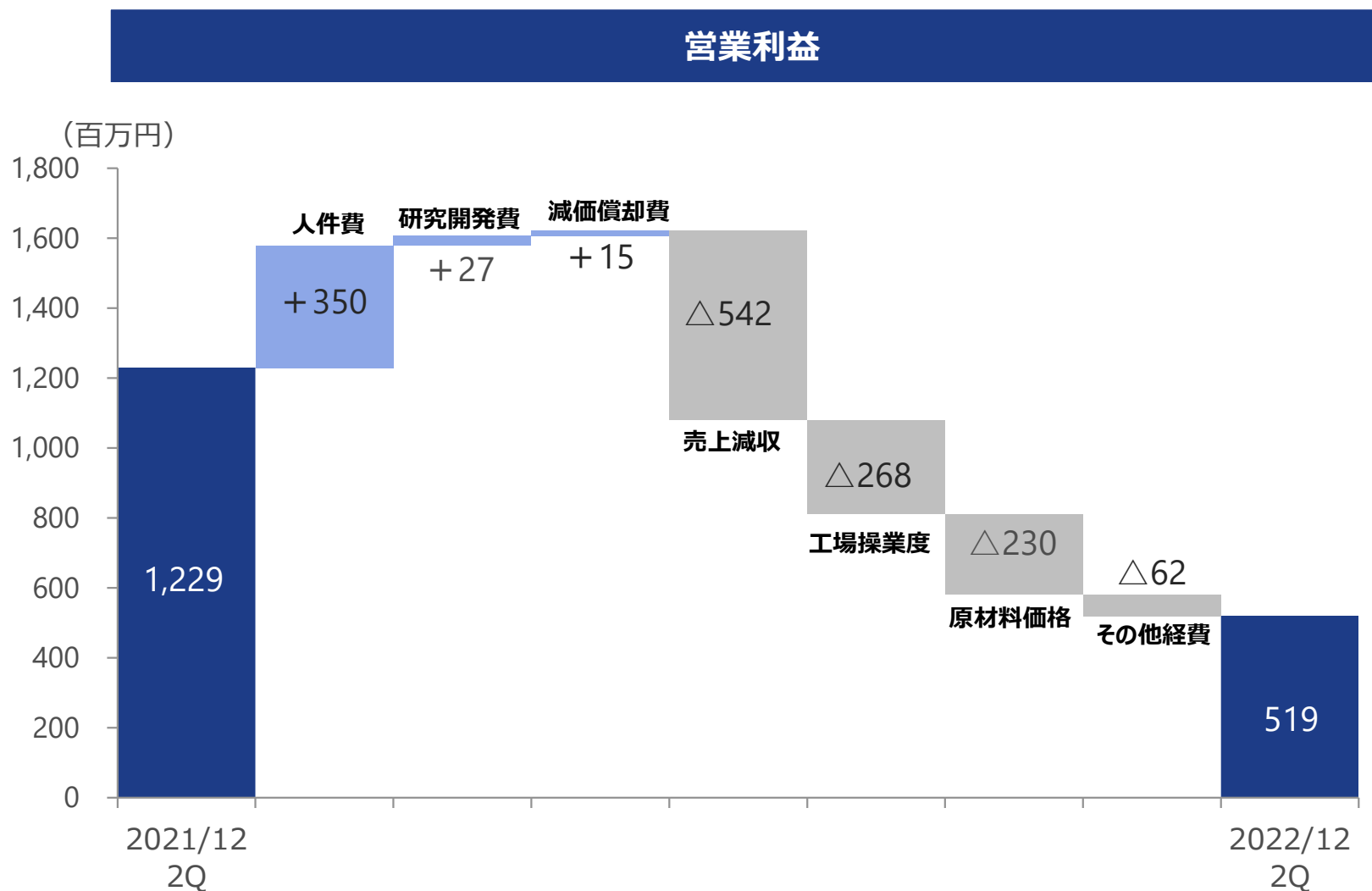
中国は、上海市のロックダウンにより営業活動が2か月間停止した影響により減収



4. 2022年12月期第2四半期 増減要因分析

増益要因：主に上期賞与の支給額や残業代などの人件費が抑制されたことによる

減益要因：売上の減収に加え、受注減により生産台数が減少し工場の操業度が低下したこと
および原材料価格の高騰による



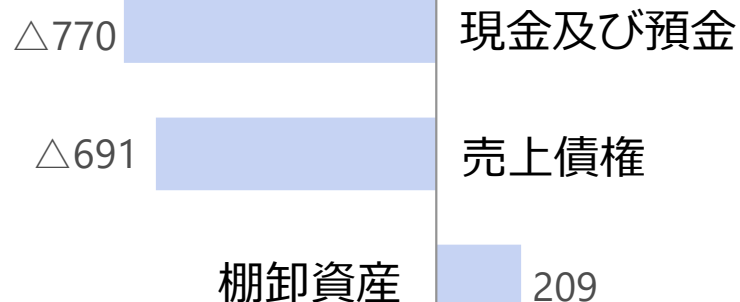
5. 2022年12月期第2四半期 貸借対照表

2021年12月期 期末
総資産 35,295百万円

△1,185百万円

2022年12月期第2四半期末
総資産 34,109百万円

流動資産 △1,232



負債 △431

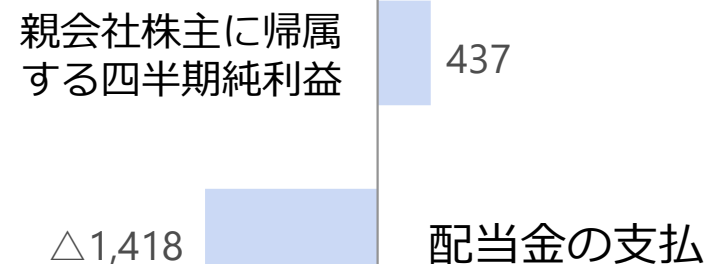
(百万円)



固定資産 +46

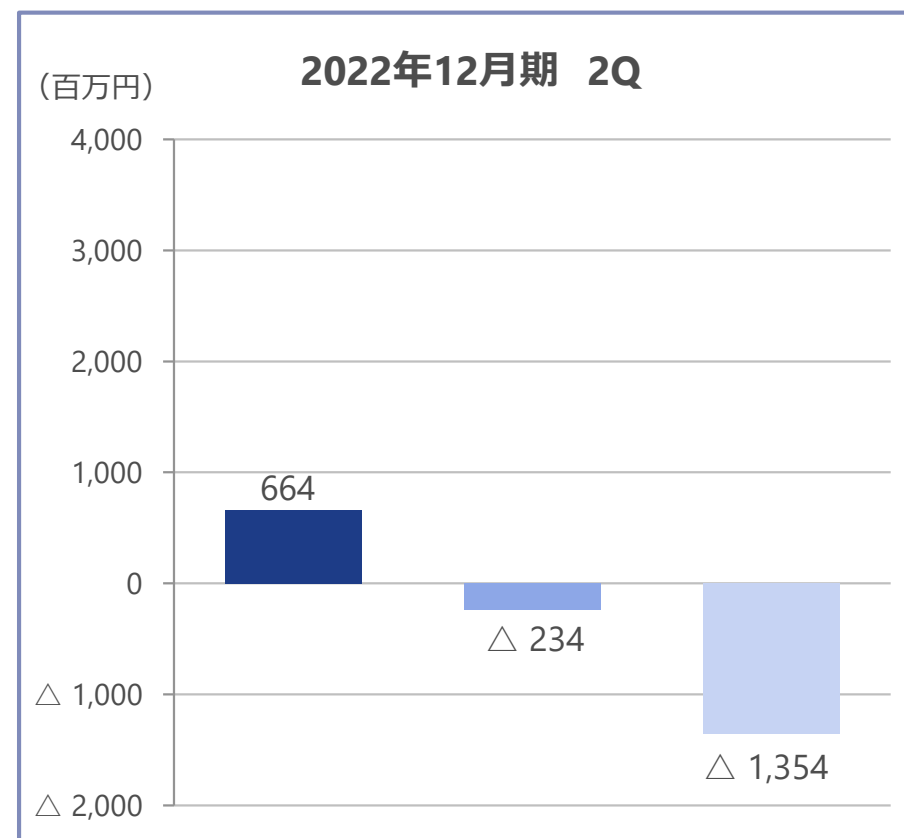
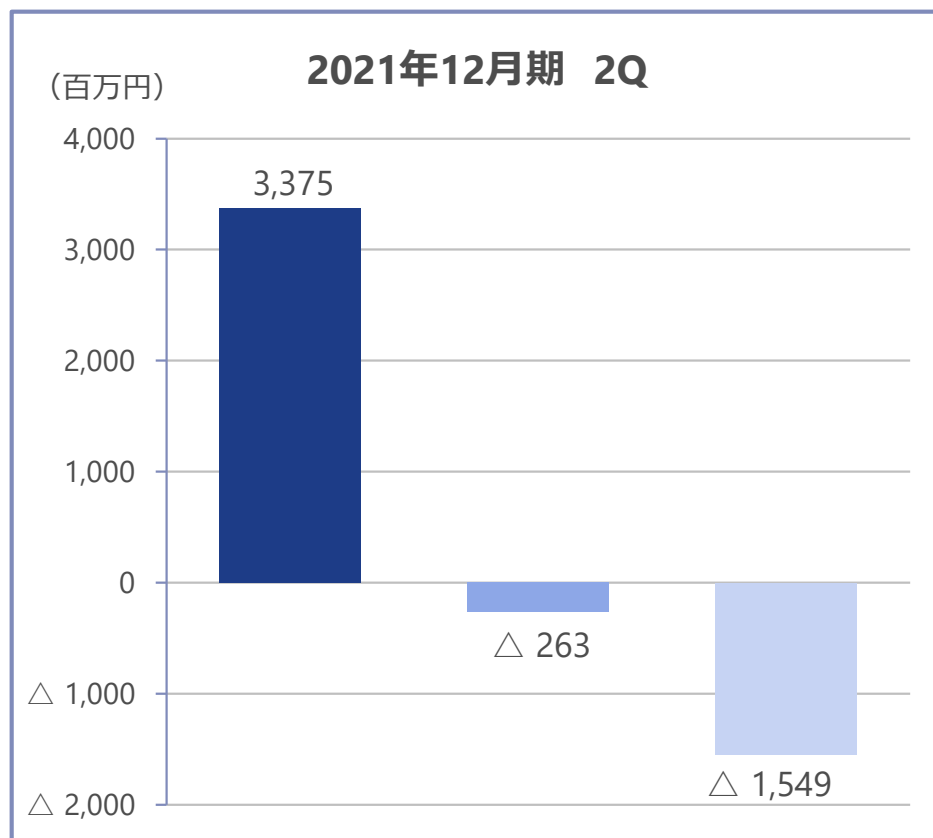


純資産 △754



自己資本比率 2021年4Q 70.3% 2022年2Q 70.2% △0.1%

6. 2022年12月期第2四半期 キャッシュフロー計算書



■ 営業活動CF ■ 投資活動CF ■ 財務活動CF

【ポイント】《2022年12月期2Q 営業活動CF》

- 税金等調整前四半期純利益 579百万円（前年同期は1,297百万円）
- 売上債権の減少額 817百万円（前年同期は1,438百万円の減少）
- 仕入債務の減少額 262百万円（前年同期は688百万円の増加）

II. 2022年12月期 業績予想

1. 業績サマリー
2. 損益計算書
3. 販売見込（事業分野別・販売国別）増減要因分析
4. 増減要因分析



2022年は全事業合計で売上高287億円を見込む（前年同期比12.0%減 予想）



【ショーケース・倉庫事業】（前年同期比13.5%減予想）

- ショーケース事業は、昨年の設備投資の反動に加えて、建築資材の高騰、物流費の値上がりにより設備投資の抑制が継続
- 倉庫事業は、宅配事業やネットスーパーの普及により堅調に推移



【メンテナンス事業】（前年同期比6.5%増予想）

- 提案型メンテナンスの継続により新規の受注を獲得
- 店舗空調設備の保守点検などメンテナンス領域を拡大し売上伸長



【海外事業】（前年同期比27.5%減予想）

- 新型コロナ感染対策に伴う上海市ロックダウンの影響が大きく、顧客の投資意欲も低下している状況

2. 2022年12月期予想 損益計算書

売上高 : 昨年の反動からショーケース事業の改装が伸びず減収の見込み

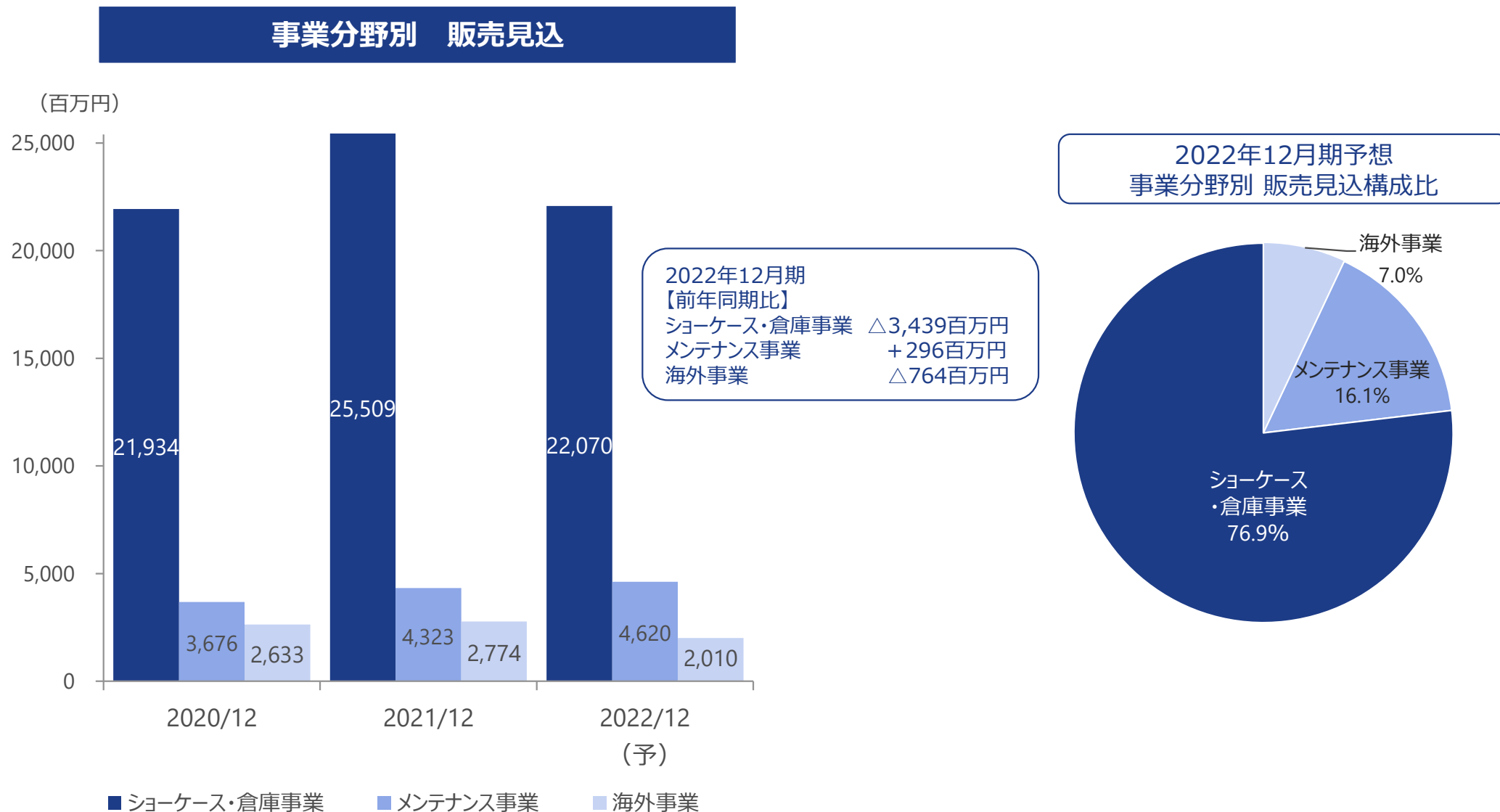
利益 : 販売価格の改定や生産性の改善に取り組むも昨年の実績を大きく下回る見込み

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2021/12		2022/12 前期比			
	実績	構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	32,606	100.0	28,700	△ 3,906	△ 12.0	100.0
ショーケース・倉庫事業	25,509	78.2	22,070	△ 3,439	△ 13.5	76.9
メンテナンス事業	4,323	13.3	4,620	296	6.9	16.1
海外事業	2,774	8.5	2,010	△ 764	△ 27.5	7.0
営業利益	1,939	5.9	982	△ 957	△ 49.4	3.4
経常利益	2,054	6.3	1,095	△ 959	△ 46.7	3.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,406	4.3	797	△ 609	△ 43.3	2.8

3-1. 2022年12月期予想 販売見込（事業分野別）

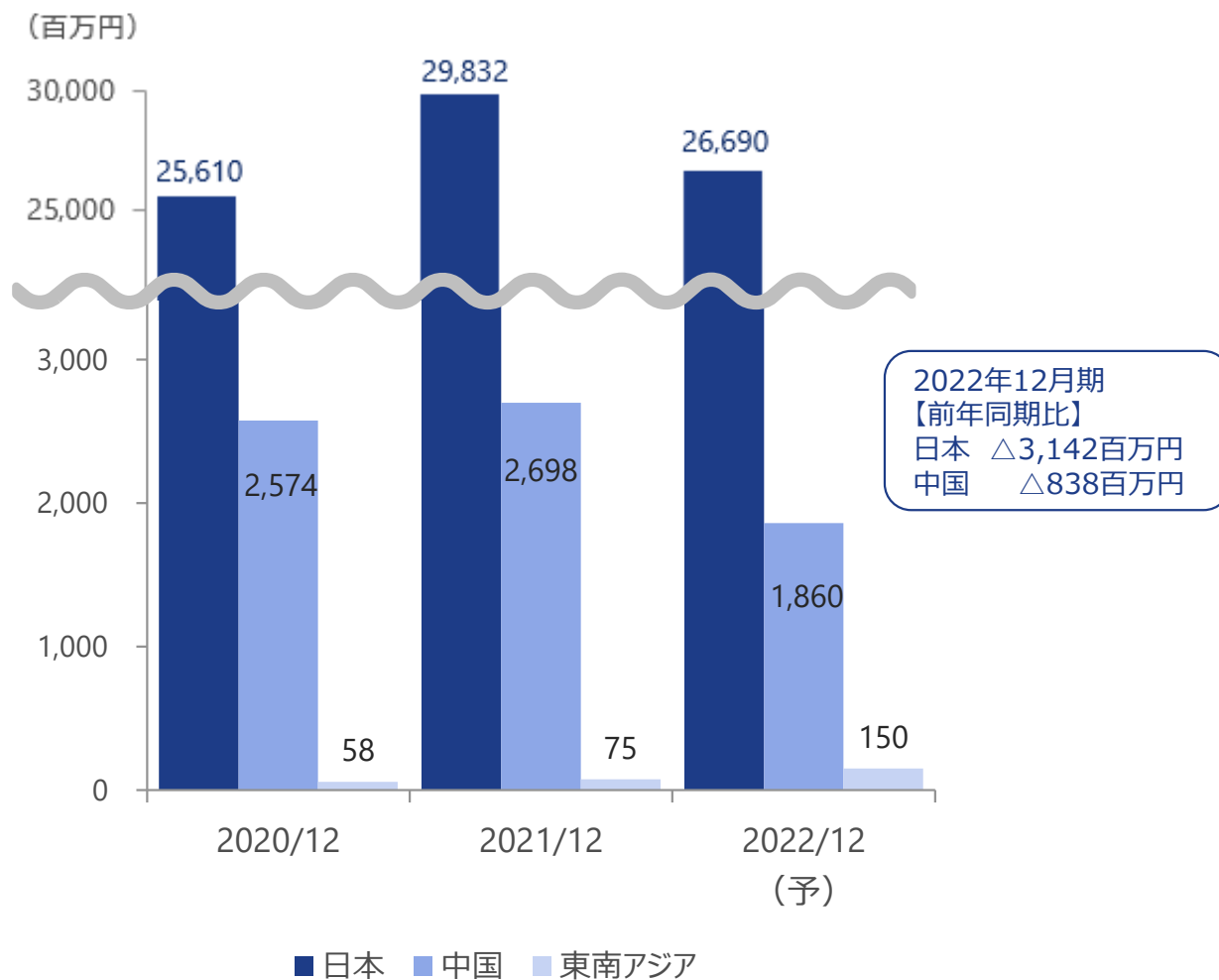
ショーケース・倉庫事業と海外事業は減収、メンテナンス事業は増収予想



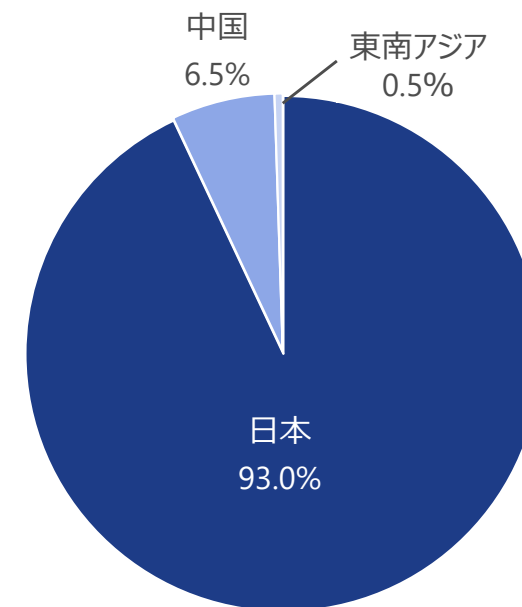
3-2. 2022年12月期予想 販売見込（販売国別）

日本、中国ともに減収予想

販売国別 販売見込

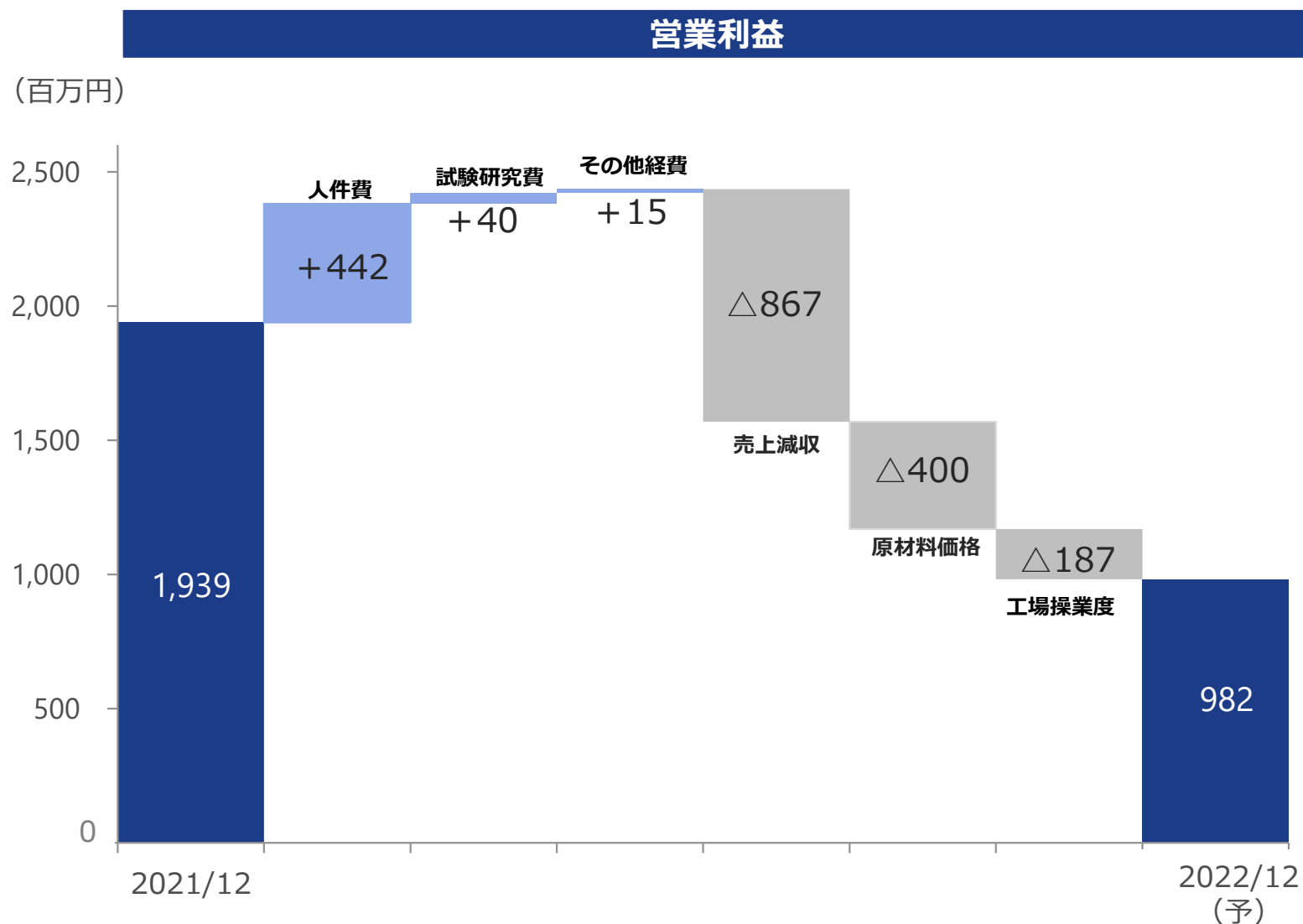


2022年12月期予想 販売国別 販売見込構成比



4. 2022年12月期予想 増減要因分析

人件費抑制による増益も、売上減収、生産台数の減少による操業度低下、
原材料価格の高騰により減益の予想



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の概要

2. 事業計画進捗

3. 設備投資の進捗状況



1. 中長期経営計画概要

N-ExT 2023 のコンセプト

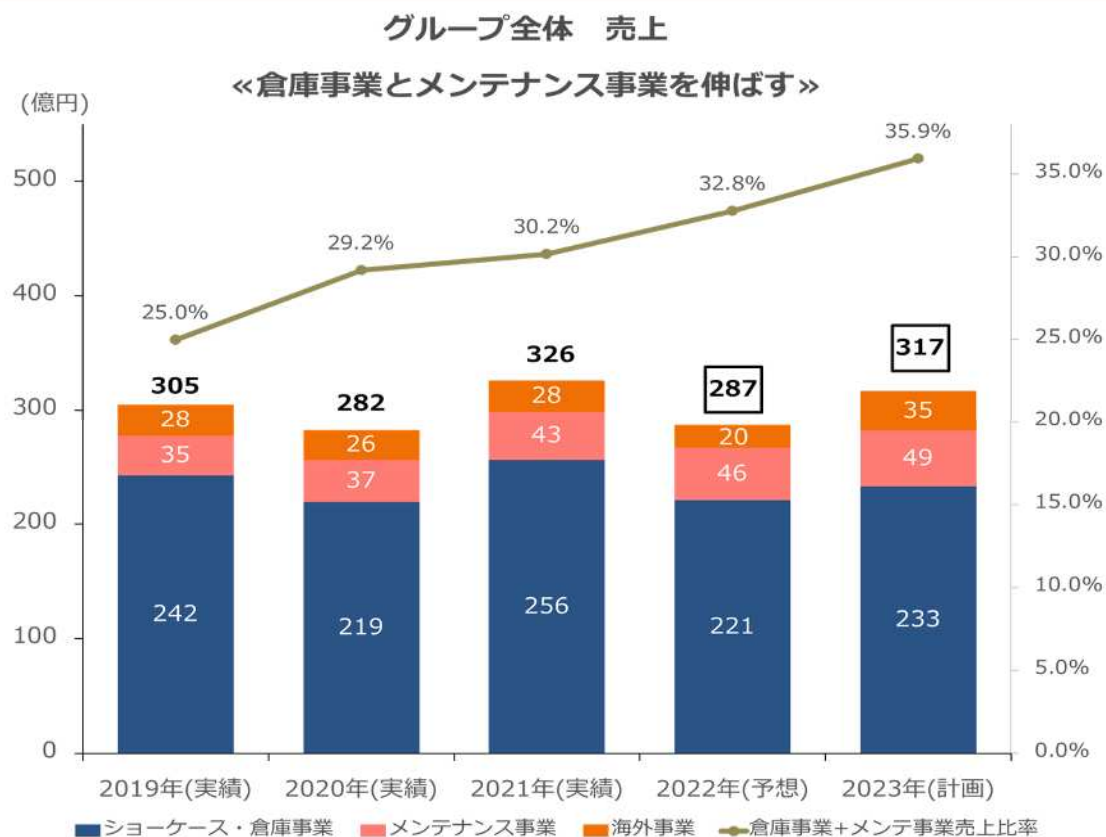
◆「冷やす」技術をもとに最良の製品・サービスを生み出し、顧客と共に新しい課題に取り組むことで社会に貢献する

A.安定：新技術を活用した、更なる効率化を実現できる製品・サービスの提供

B.成長：従来のお客様の「冷やす」に留まらないお悩み・ご要望の解決

C.挑戦：新たなお客様へ向けた、「冷やす」を起点とするサービスの提供

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2023年度 計画
売上高	305億円	282億円	326億円	317億円
営業利益	22億円	12億円	19億円	24億円
EBITDA	27億円	17億円	26億円	31億円
ROE	5.9%	3.7%	5.7%	6.0%以上



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の概要

2. 事業計画進捗

3. 設備投資の進捗状況



2-1. 食品小売業界 市場推移

スーパーマーケット
店舗数・売上前年比推移

統計・データでみるスーパーマーケット
(<http://www.j-sosm.jp/dl/index.html>)
を加工して作成

売上前年比
110.0%



全国コンビニエンスストア
店舗数・売上前年比推移

日本フランチャイズチェーン協会
(<https://www.jfca.or.jp/particle/320.html>)
を加工して作成

売上前年比
110.0%



一般社団法人 日本冷凍空調工業会 ウェブサイト
(<https://www.jraia.or.jp/statistic/detail.html?ca=2&ca2=14>) より転載

◆スーパーマーケット、コンビニエンスストア店舗数・売上推移

- スーパーマーケットは店舗数が増加も、業績は停滞傾向
コロナ禍で好調となった2020年以降、前年割れが続いている
- コンビニについては新規出店抑制が継続しており、店舗数が減少傾向に転じる
外出自粛等の影響で悪化した業績は回復傾向

◆冷凍・冷蔵ショーケース出荷台数

- 2022年は、昨年の集中設備投資の反動や、建築資材の高騰が影響し、業界全体の出荷台数は減少すると推測。

顧客のニーズに寄り添った取り組みを強化し、維持・拡大を図る

新技術を活用した、更なる効率化を実現できる製品・サービスの提供

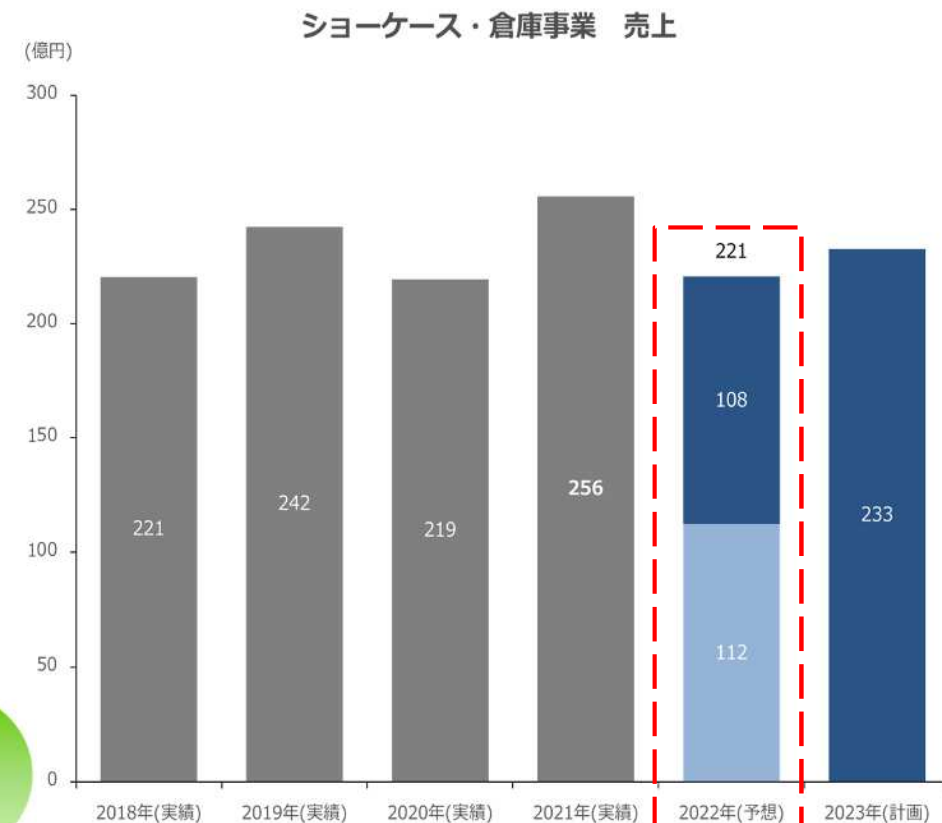
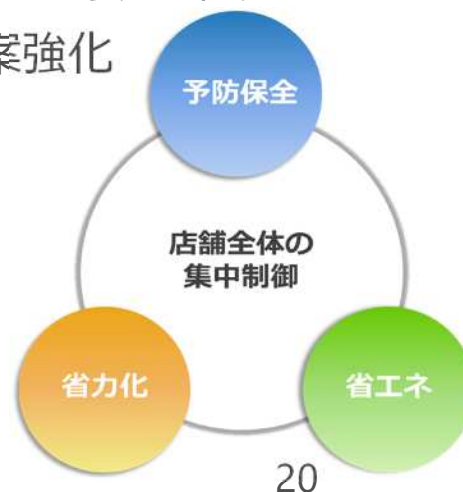
【現在の状況】

- 昨年は店舗の売り場変更に合わせた改装需要が好調。
今年は昨年の集中設備投資の反動や、原材料高騰が影響し、改装需要が減少。
- 店舗の電気代が高騰しており、省エネ製品やオプションの需要が増加。
- 倉庫事業は、堅調に売上を確保。ライフスタイルの変化に合わせ冷凍食品や個人宅配のセンターが増加。



【今後の施策】

- 環境配慮に向けた技術開発・技能強化
⇒ 冷媒のノンフロン化、低GWP化、省エネ性の高い製品の開発
- 店舗環境、作業場環境改善のための提案強化
(結露・コールドアイル等)
- クラウドシステムを利用したシステムの開発
⇒ 異常予知診断確立
⇒ 店舗全体のトータル制御



従来のお客様の「冷やす」に留まらないお悩み・ご要望の解決



【現在の状況】

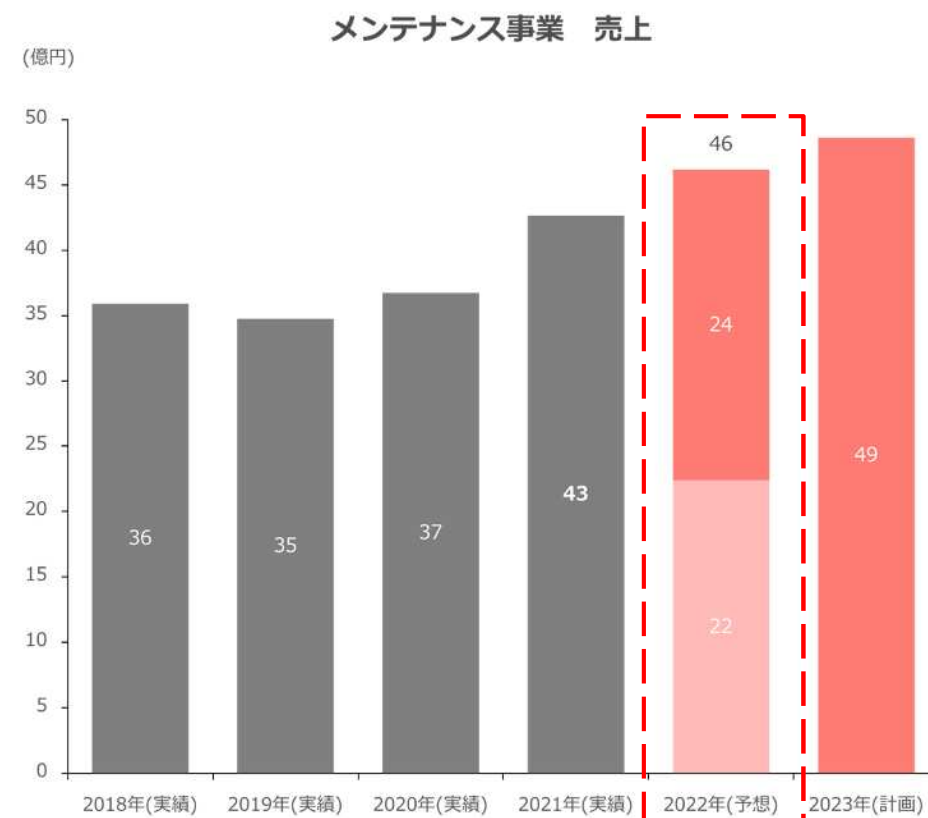
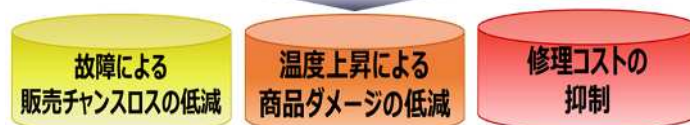
提案メンテナンスによる店舗サポートを継続し、売上伸長。
メンテナンス範囲拡大に向けて、既存業務の効率化を実施。

【今後の施策】

- 当社の強みを生かし、季節要因に左右されない売上獲得に取り組む
⇒ 24H365日に対応したメンテ体制と、高品質なメンテ対応
- メンテナンス領域の拡大に向けた対応力強化
⇒ 新規委託先、人材採用、教育
- 保守契約店舗の拡大
- 空調機定期点検の受注獲得
- センサムクラウドと連携した予防保全
- 点検、修理の省人化・効率化



トラブル・ダメージの予防保全



新たなお客様へ向けた、「冷やす」を起点とするサービスの提供

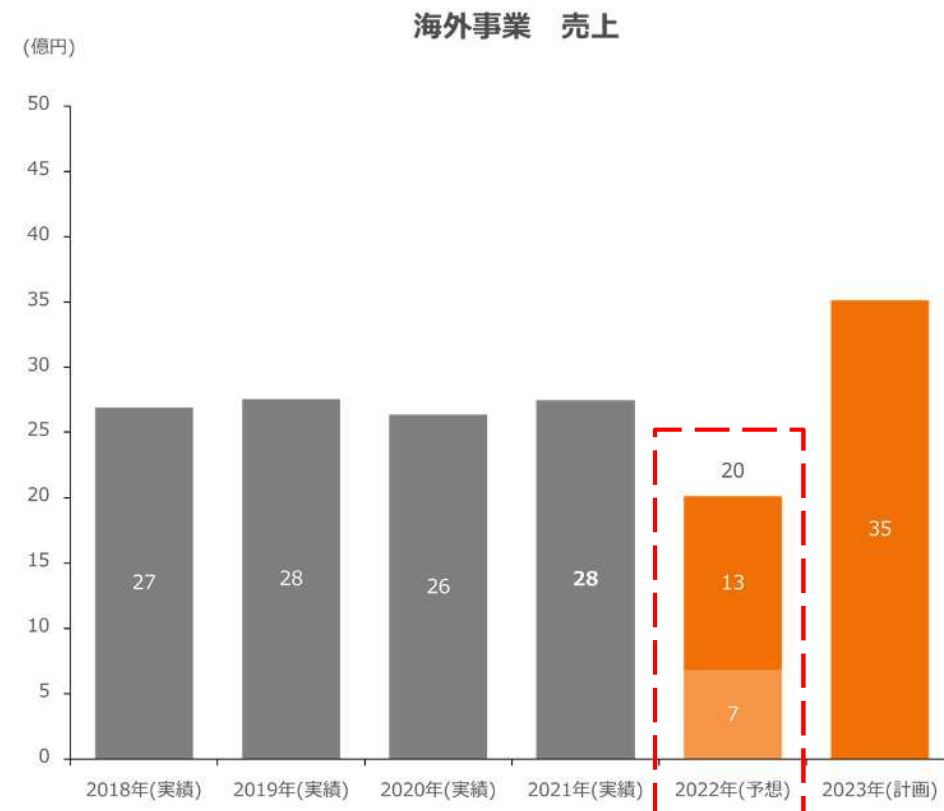
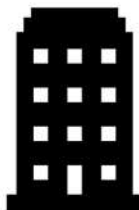


【現在の状況】

- 昨年までの渡航制限が緩和され、現地調査を再開。日系企業や現地企業への営業活動を開始。
- 中国は、4,5月のロックダウンにより一時的に営業活動が停止。ネット販売の普及に伴い、実店舗の業績が低迷。

【今後の施策】

- 現地調査結果を踏まえ、計画の見直しを実施
- 中国合併との連携を強化
⇒ 海外事業における製造拠点として、連携強化
- 日系企業・現地企業への営業
⇒ 既存の顧客接点を起点としたルート開拓
⇒ 現地活動を通じた顧客の開拓
- 現地人材の採用と技術者育成
- 現地委託店ネットワーク確立



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の概要

2. 事業計画進捗

3. 設備投資の進捗状況



3. 設備投資の進捗状況

2022年度上半期は47百万円の投資を実施

中長期経営計画 (2019年度～2023年度)



2022年度 計画



2022年度 設備投資実施予定 内訳

生産設備	: 5.7億円
環境整備	: 1.3億円
基幹システム	: 5.7億円
業務改善	: 0.3億円
事業拡大	: 4.0億円

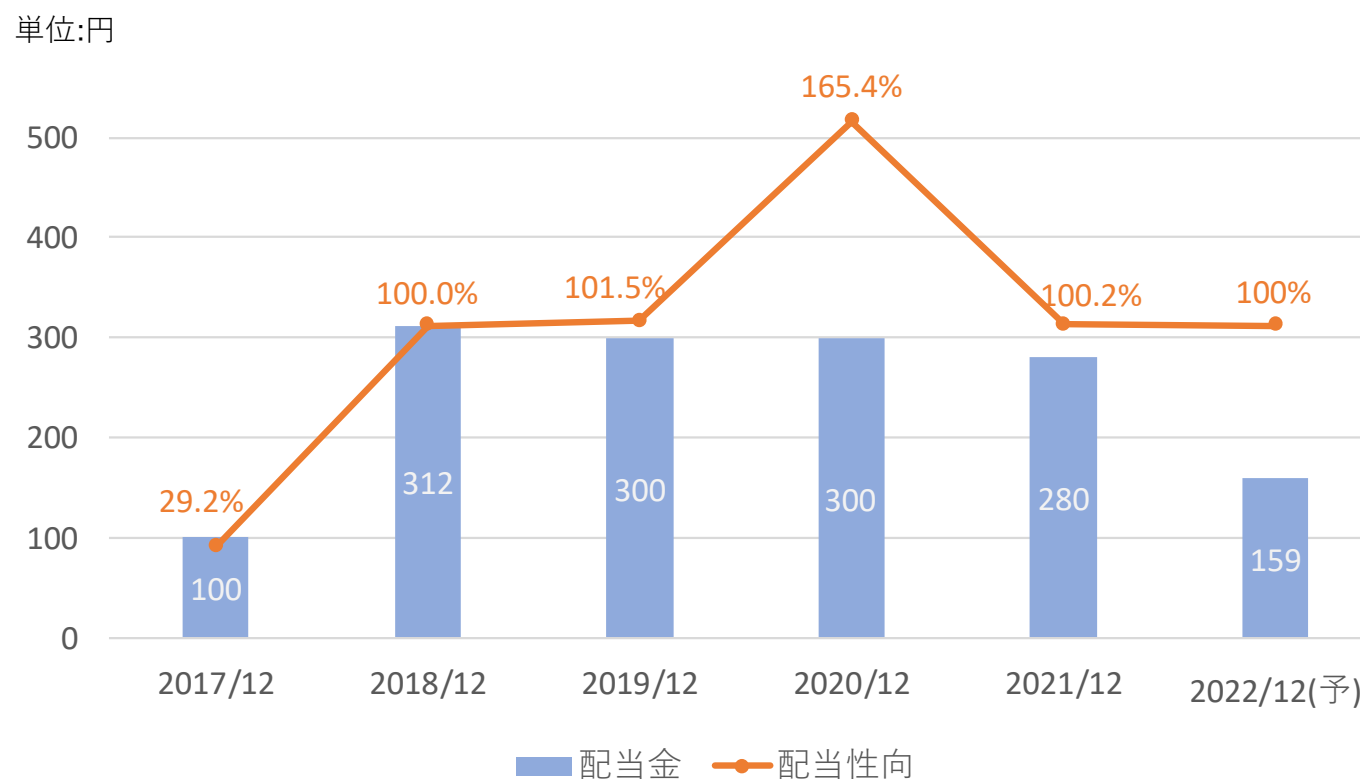
IV. 株主還元方針



配当方針

- 2022年12月期の連結配当性向について、株主利益還元を基本とする配当方針を継続し、年間100%として、年間1株当たり配当金額を159円を見込んでおります

配当実績



V. 企業価値向上に向けた取り組み

1. 企業価値向上に向けた取り組み
2. 環境に向けた取り組み
3. カーボンニュートラルに向けた取り組み



1. 企業価値向上に向けた取り組み

長期にわたる安定成長を通して、全てのステークホルダーとの良好な関係の確立・継続を目指す

マテリアリティ（重点課題）

◆コーポレート・ガバナンスの充実

◆より透明性の高い経営の追求

◆人材育成の強化

◆地球環境・社会への貢献

ガバナンス（G）

◆経営と執行の峻別

- 執行役員制度を導入し、経営と執行の峻別、意思決定の迅速化を継続

◆3分の1以上の社外取締役を確保

- 独立した立場からの客観的なモニタリングを実施し、更なるガバナンス体制強化を図る為、現在、過半数の社外取締役を確保



社会への貢献（S）

◆社員スキルのベースアップへの取り組み

- 全社員のスキルアップに向けた階層別教育制度プログラムの実施（2022年は4階層向けの教育を7月に実施）

◆多様な人材の採用

- 新卒、中途採用における女性・外国人社員比率の上昇や性別、職種に縛られない採用を実施



環境への取り組み（E）

◆環境への配慮

- 使用冷媒のノンフロン化、低GWP化に加え、省エネ性の高い製品を開発し、地球温暖化低減を推進する
- AIによる冷媒漏洩予知システムを採用し、早期判断による冷媒漏洩量を最小限に抑える



2. 環境に向けた取り組み

健全な事業活動を基盤とした経営で、ステークホルダーの皆様に対する責任を果たしつつ、お客様と共に社会的課題に取り組み、信頼される企業を目指す



お客様・社会的課題の解決

社会に信頼される企業

中長期経営計画

省エネ

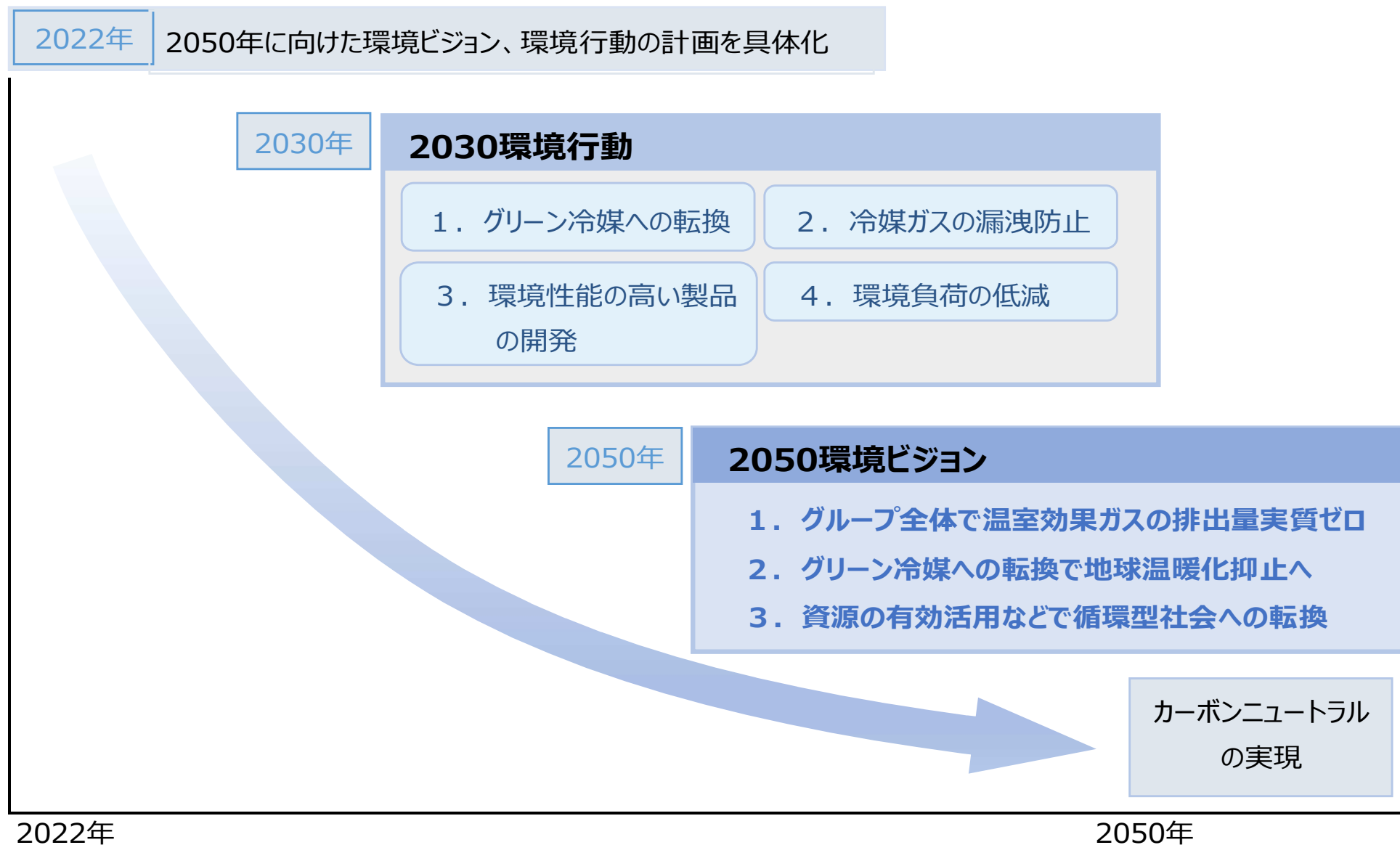
省人・省力化

温室効果ガスの削減

2030環境行動

2050環境ビジョン

2050年のカーボンニュートラルに向けた環境ビジョン、環境行動を具体化



2050環境ビジョン

中野グループでは、2050年を見据えて「2050環境ビジョン」を策定し、温室効果ガスの排出量の実質ゼロを目指してまいります。

1. グループ全体で温室効果ガスの排出量実質ゼロへ

- ・使用冷媒のノンフロン化、低GWP化への転換を推進し、温室効果ガス排出量削減に貢献します。

2. グリーン冷媒への転換で地球温暖化抑止へ

- ・ノンフロン冷媒、低GWP冷媒など環境負荷の低いグリーン冷媒を使用した環境にやさしい製品を提供するとともに、製品・施工・メンテナンスでの冷媒ガス漏洩ゼロを目指します。

3. 資源の有効活用などで循環型社会への転換

- ・事業活動や製品・サービスで資源の有効活動を進めるとともに、業界団体・行政などとの連携のもと、循環型社会への転換を図って参ります。
- ・省エネ性・省力化の高い製品の開発による資源の有効活用、事業活動における廃棄物の削減や使用済み製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を図ります。

2030環境行動

1. グリーン冷媒への転換

2. 冷媒ガスの漏洩防止

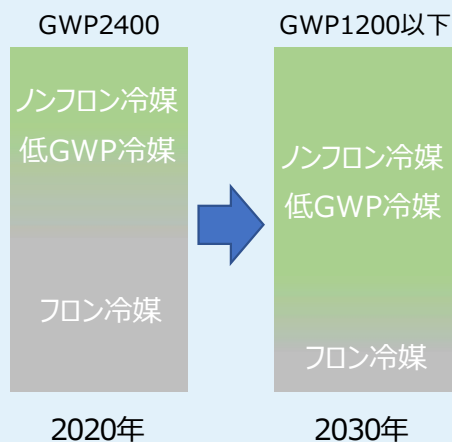
3. 環境性能の高い製品の開発

4. 環境負荷の低減

2030環境行動

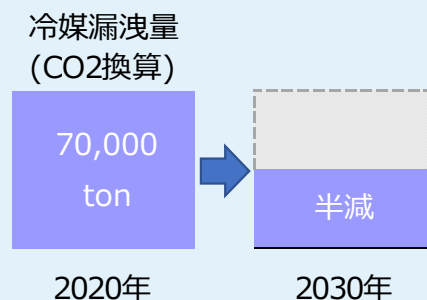
1. グリーン冷媒への転換

- ・使用冷媒のノンフロン化、低GWP化への転換を推進し、温室効果ガス排出量削減に貢献します。
- ・2030年までに製品に使用する冷媒の温暖化係数の半減を目指します。



2. 冷媒ガスの漏洩防止

- ・2023年よりAIによる冷媒漏洩予知システムを採用し、早期判断による冷媒漏洩量を最小限に抑えます。
- ・保守契約による定期的な点検により、冷媒漏洩防止に努めます。
- ・確実な施工、メンテナンスで漏洩に対する品質を向上させます。



3. 環境性能の高い製品の開発

- ・使用冷媒のノンフロン化、低GWP化に加え、省エネ性の高い製品を開発、市場投入することにより、ライフサイクル全体での地球温暖化低減を推進します。
- ・空調システムと冷凍システムを連携させて、店内環境に追従したより効率的なシステムを開発し、店舗全体でのCO2排出量を削減します。

<2030年に向けての省エネ計画>



4. 環境負荷の低減

- ・省エネ製品の導入や再生可能エネルギーの活用を通じて、事業活動全般におけるCO2排出量の削減を進めるとともに、廃棄物の削減や使用済み製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を図ります。

<本社ビル太陽光発電>



1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値、将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。そのため、実際の業績は様々な要因により予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は、将来に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。



■■■■ 鮮度ビジネスのリーダー ■■■■

Nakano

